

三宅島1983年10月3日の噴火の経過***

地質調査所*
東京大学地震研究所**

表は、今回の噴火の報道および島民からの聞き取り調査（主に三宅高校・徳田安伸教諭のメモ）をまとめたものに、御蔵島中学藤田治夫教諭の遠望記録を加えたものである。

噴火の前駆地震は、1962年の噴火の際とほぼ同様に、噴火前の約1.5時間前の14時59分に始まった。

噴火は、雄山の南西約2kmの山腹の二男山付近で、15時15—20分頃に始まり、標高約500から200m付近までの北東—南西方向と標高約100mから海岸へほぼ南北方向の延長約5kmの開口割れ目で起った。

新澗池付近の噴火は、二男山付近の噴火のおよそ1時間30分後の16時40分頃に始まった。

新鼻付近の噴火の開始は、さらに遅く、17時10分頃撮影した読売新聞社の写真には、海岸付近に水蒸気が立ち昇っているのが認められる。また御蔵島からの遠望観察では、15時30分に火柱が海よりに移ったのが確認されている。

山腹の開口割れ目から流下した溶岩は、16時30分に阿古地区の都道の東500m付近まで流下した。溶岩の流下速度は、2—2.5km/hとなる。

噴火は、10月4日午前3時頃には小康状態となり、噴火の継続時間はおよそ12時間であった。

* 曾屋龍典・宇都浩三

** 荒牧重雄・早川由紀夫

*** Received Jan, 11, 1984

表 1983年三宅島火山噴火の経緯

Table Time sequence of the 1983 eruption of Miyakejima Volcano.

* 藤田治夫氏(御倉島中学)の遠望観察

表 1983年噴火の経緯

日	時刻	現象	備考
10月3日	13:59	地震始まる(測候所無感)	
	14:00	ガラス窓 ゆれ始まる(坪田)	
15日	48	震度1	
	15~20	噴煙目撃 鍋ヶ浜	
	25	噴煙目撃 テニスコート 中継所	
	29	黒煙3,000m(全日空)	
	40	三池 空港で降灰 割れ目火口南へのびる	
16日	30	溶岩 阿古都道東上500mへ	
	40頃	新湊池爆発:45 通信線切断(新湊池南)	
	46	火山礫降下始まる(坪田):50 火山雷 硫黄臭	
17日	00頃	車のフロントガラス割れ始まる(坪田)	
	15	溶岩 阿古都道に	
18日	22	栗辺(新湊池西?)で火柱*	
	30	栗辺の火柱 海よりに移る*	
	00頃	阿古民家 燃え始める	
19日	34	火山礫降下弱まる(坪田)	
	49	震度3	
	00頃	溶岩 栗辺集落に	
20日	10	火山礫降下やみ 火山灰まじり泥雨になる	
	34	震度3(坪田は相当なゆれ)	
21日	26	爆発(薄木?)	
	40	激しい爆発(新鼻からタツネ)	
22日	33	震度5 M.6.1	
	36より後	(地震直後)栗辺付近2ヶ所で火柱*	
23日	10より前	新鼻付近 海底爆発	
	24		
10月4日	1	新鼻付近 時おり激しい噴火	
	3	噴火小康状態	

割山
れ腹
目火口

新湊
西火口

新鼻
火口